
Re : Re

まなつか

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Re:Re

【Nコード】

N2091S

【作者名】

まなつか

【あらすじ】

メールを待ち続ける少女。
一ヶ月、半年、そして一年――

「送信しますか？」

画面にはそう表示されている。

私はためらった。

このまま送っても彼は返事をくれないかもしれない。

まだ彼は怒っていてこのメールをウザがるかもしれない。

実は彼にはもう彼女がいて私とメールをしてくれないかもしれない。
い。

私はためらった。

「はい／いいえ」

そう表示されている。

私は戻ってメールの内容を確認する。

『件名：どうしたの？』

最近、メールがないけど何かあったの？』

短く、簡潔に書いたつもりだ。

大丈夫だろう。

こんなうだうだしていても仕方がない。

私は目をつぶって『はい』の方を押した。

しばらく携帯の前で待ち続けた。

だけど、一向に来なかった。

一時間経った。それでも待ち続けた。

一日経った。私は諦めなかった。

一週間が経った。私は心のなかがきつく絞めつけられるような感
覚になった。

そして一ヶ月。私はとうとう諦めて彼のアドレスを削除した。

一年後。知らない番号から電話がかかってきた。

「もしもし……？」

「こんにちは、一哉の母です」

「かつ、一哉くんのですか!？」

「はい……あの、一哉は一年前、死んだんです」

「えっ……」

「今日遺品の整理をしていたらあなたのメールが見つかった……」
「そんな……嘘……」

私は電話を切って外に出た。

夜空には星が輝いていた。

何時の間に、彼は逝ってしまったんだろう。

メールの返事はいつになっても来なかった。

（後書き）

こんにちは、まなつかです。

私の人生の5割は暗いもんです。

躁状態の時には明るい小説。

鬱状態の時には暗い小説です。

なぜ今回こんな小説を書いたかというところ……

実際に返事がなくなってきたから――

という単純な理由です。

それでは、私も送信ボタンを押してきます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2091s/>

Re : Re

2011年10月7日23時45分発行